

## 「人を喜ばせ、人を幸せにする」

2 5 1 2 2 3

2学期、幸中生の「命の輝きを感じる瞬間」をいろいろな場面で見ることができた一方で、私が絶対に許せない事案も起きていることも事実です。それは、生徒指導の山本泰暉先生からも指導があった、SNSによる嫌がらせの事案です。各学級、学年でも何度も何度も繰り返し指導があると思いますが、それでも悲しい思いをする子がいなくなりません。指導をしてくださった先生方からは、軽い気持ちで、面白半分で、ウケを狙って、こんなことになると思っていなかつた、といった理由でやってしまったと生徒たちは言っていますという報告を受けています。しかし、嫌がらせを受けた子の苦痛を思うと、悪ふざけでは到底済まされるものではありません。スマホなどの通信機器を親から信用され、許可をもらって使用する以上は、その信用・自由に値する責任を果たすのが義務です。義務を果たさない自由はただの「我儘」です。幼い子どもと同じです。相手のことを思い、想像し、してもいいことなのか、許されないことなのかを考えて行動する責任が、中学生には当然あります。相手の人権を、尊厳を、命を傷つける行為を私は許しません。まさに人権講話で学んだ「リスペクト・アザーズ」です。人を傷つけるのではなく、「人を喜ばせる」「人を幸せにする」ことで、自分の命を輝かせ、人の命も輝かせてほしいと願っています。

(R7 年度 2 学期終業式 式辞より)